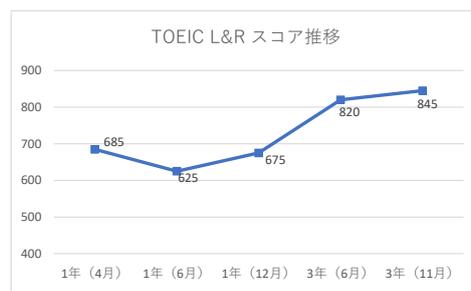


BE AMBITIOUS

～留学・語学カアップの軌跡～

学部学科	社会学部・社会学科	
学年	4年生	
氏名	R.Y	
TGLランク	TGL GOLD	
留学経験	短期	語学セミナー（カナダ・マニトバ大学/1カ月間）
	長期	長期留学（アイルランド・ダブリンシティ大学/1セメスター）
語学スコア	入学時	TOEIC L&R 685
	現在	TOEIC L&R 845 (160点アップ)



(2022年2月現在)

学年	学期	留学	留学関連科目	語学スコア	学内イベント等	TGL	コメント
1年 (2018)	春	語学セミナー(※) (カナダ)	【LEAP】 EAP Listening/Speaking Reading/Writing	TOEIC L&R 685 TOEFL ITP 477 TOEIC L&R 625 TOEFL ITP 513	留学フェア参加 TGLキャンプ (危機管理)		将来的な長期留学は考えていた。しかし、具体的にどこで何を学べるかは分かっていなかった。まずはTOEICやTOEFLのための勉強をした。
	秋	長期留学出願	【LEAP】 PSA College Study Skills/ Basic Academic Writing	TOEFL ITP 507 TOEIC L&R 675			語学セミナーを終え、海外で現地の学生と専門科目を履修し学びを広げたいと思うようになった。長期留学の出願が迫っていたため、国や大学選を留学レポート等を参考にしながら進めた。
2年 (2019)	春		【LEAP】 PSA Academic Essay Writing		TGLキャンプ (危機管理)	BRONZE	9月に長期留学の出発控え、LEAPも仕上げに入った。2年生の春学期は主に、レポートの書き方に焦点を当てて学習した。
	秋	長期留学(※) (アイルランド)		TOEFL ITP 493		SILVER	2019年9月より留学開始。
3年 (2020)	春			TOEIC L&R 820			新型コロナウイルスが流行し、1年間の留学予定が半年で帰国することになってしまった。さらに、外出自粛の影響で、学んだ英語を外部で使うということが制限された。
	秋			TOEIC L&R 845			行動が制限された中でも、英語を使う授業や、オンラインでのやりとりを通して、英語を使うように意識した。
4年 (2021)	春						TGL GOLD認定要件の1つである外国語による授業科目を40単位修得し、TGL GOLDに認定された。
	秋 ※現在※						卒業論文や就職活動を終え、就職先でも英語を使えるように準備を進めていきたい。

(※) 奨学金対象プログラム

入学時（留学の目標）
 入学時は、「留学」という言葉に漠然とした憧れがあった。将来的に行きたいとは考えていたが、留学は国際学部の学生が行くもので、自分には厳しいのではないかと考えていた。

留学を目指すきっかけ
 きっかけは2つある。
 1つ目は、1年次の夏休みに参加した語学セミナーである。実際に海外で、もちろん完璧ではないが、自分の英語が伝わる、気持ちや想いが伝わるという体験が強烈だった。自分がマイノリティという状態で、授業やアクティビティなど、何においても自分から行動し、獲得するという経験が新鮮で非常に楽しかったと記憶している。常にワクワクしていた。日本で学ぶことはまた違う面白さに魅力を感じた。
 2つ目は、社会学科の先輩方の体験を聞いたことである。私は国際系の学部ではないので、英語力も高くなく厳しいと感じていた。しかし、先輩方の実体験を聞き、履修の仕方、帰国後の動きなどを詳細に知ったことで、自分の中で留学をイメージすることができた。確かに英語力は上げる必要性があったが、長期留学というものに対して大きく身構える必要はないと思った。以上の2つから、自分の留学の姿に対して、海外での実体験と先輩方のバックアップによって、具体性を持たせることができ実現可能であると思い、長期留学を目指した。

留学種別・留学先を決めた理由

私は、海外での経験と費用面から、長期留学（以前は交換留学）を選択した。海外で学ぶのであれば、長期で現地の学生たちと同じ専門科目を履修したいと思っていた。語学での留学と比べ、履修できる授業の数、種類は圧倒的に多く、その分多様な知識を得て、自分なりの経験が可能であると考えたからである。授業や生活スタイルなど1から自分で決めることができる点においても長期留学に魅力を感じていた。また、費用に関して、長期留学であれば他の留学形態より、費用を抑えることができると思った。やはり留学の大きな障壁の1つである費用を、そこまで不安を感じなくて良いということも、長期留学を選択する理由となった。アイルランドのダブリンシティ大学を選択した理由は、多様な授業である。基本的にどの分野の授業も履修することができる。自由度が高く、さらに日本ではあまり見かけないヨーロッパ（例えばフランスやドイツ、イタリアなど）の学生と多く出会うことができる。日本について学ぶ学部も存在し、実際に彼らとも授業や課外活動で多くの時間を過ごすことができた。私にとって、自由にそして有意義な時間を過ごすことができる環境がダブリンシティ大学にはあると感じた。



語学勉強方法（効果のあった勉強方法、参加してよかった学内講座など）

1年生の春学期から履修したLEAPの授業は非常に勉強になった。もちろん、TOEICやTOEFLで点数を取るための授業もあったが、それだけではなかった。スピーキングやエッセイの授業など実際に留学先で使うことのできる知識を、高いレベルで学ぶことができた。最初のうちは大変だったが、自分を「英語を学ぶ環境」に置くことができた点が良いと思った。また、英語のニュース等を聞き、自分もキャスターのように読むということも効果があったと思う。英語を聞く、さらに音読をすることで、脳内で英語で理解する（英語⇒日本語⇒英語の日本語の翻訳の手間を省く）ということにつながったと思う。

失敗談（留学前にもっと準備しておけば良かったことなど）

欲張りかもしれないが、英語以外の外国語を1つでも日常会話程度に話せるとなると良いと思った。自分はこの言語も話せる、興味があるということが伝わると、より関係性が広がったように思えた。さらに、会話の中で使われる言葉や言い回しを知ると、馴染みやすくなる感じた。

長期休暇中の活動（夏休み、春休みなど）

1年次の夏休みは語学セミナーに参加した。また、長期休暇明けにTOEICやTOEFLの試験があることが多かったので、毎日数分だけでも英語に取り組み、語学試験を受験した。また、アルバイトで留学資金を貯めることも忘れずに行った。

参加して良かった学内イベント

留学に関する説明会では、経験者の皆様のお話を直に聞ける少ないチャンスだったため、非常に勉強になった。

コロナ禍での経験

コロナ禍で、実際に海外の方と接するという機会は少なかった。しかし、アイルランドで出会った友人たちとメッセージのやりとり、ビデオチャット等は継続して行っている。また、帰国後では後輩に向けて留学体験を話す機会が多くあった。

将来の進路

必ずしも英語を使うわけではないと思う。しかし、留学を経て得た課題解決や物事を伝える力を生かして仕事に邁進したい。

後輩へのメッセージ

現在もコロナ禍の真只中である。後々やってみたくて思ってもできない可能性があるということが、現在の状況から示されている。そんな今だからこそ、やってみたくて思っていること、声をあげ実行することが必要ではないだろうか。様々な制限を受けながら、完璧な状態での達成は困難かもしれない。しかし、自分の思い描いたことを達成できた、実行できたという経験をコロナ禍でもできたということは、将来にわたって自信や糧になると思う。留学に限らず、挑戦してほしい。